

令和3年度第1回北区飛鳥山博物館運営協議会 会議録

日時 令和3年8月6日（金）午後3時00分～4時36分

会場 北区飛鳥山博物館 3階会議室、及びリモートによる参加

【出席】

運営協議委員一熊野正也会長、君塚仁彦副会長、吉田優委員、真家和生委員、
中村都士治委員、阿久津光生委員、荻原通弘委員、金澤達也委員
博物館 一小野村弘幸教育振興部長、野尻浩行館長、石井達馬管理運営係長、
鈴木直人事業係長・学芸員、久保埜企美子主査・学芸員、
山口隆太郎主査・学芸員、石倉孝祐学芸員、牛山英昭学芸員、
高坂勇佑学芸員、佐々木優学芸員、田中葉子学芸員、工藤晴佳学芸員、
谷口とし学芸員、大久保輝優学芸員、学芸員実習生×4

【欠席】

大沢榮美委員、仁井田孝春委員、

【事務局】

協議会の開催に先立ちまして、若干のご説明をさせていただきたいと思えます。

本日の会議につきましては、当館3階の会議室をメイン会場といたしまして、リモート開催をさせていただいております。なお、サブ会場では、学芸員の实習生4名がこの会議の傍聴をさせていただいております。よろしくお願いをいたします。

皆様、画像、音声ともにいかがでございましょうか。ちゃんと届いておりますでしょうか。

ありがとうございます。

それでは、今回、インターネットを介した会議ということでございまして、多少音声が遅れて聞こえてまいりますので、ご発言につきましてはゆっくりと、そしてはっきりと間を少し空けていただきながらご発言をいただければ幸いです。

なお、北区の方針に基づきまして、本会議につきましては、議事録といたしまして区のホームページに掲載をさせていただき関係で録音を取らせていただきますので、ご発言の

前にはお名前をおっしゃっていただければと思います。

議事録につきましては、事前に内容のご確認をいただいたうえで、発言者のお名前につきましては伏せて公開をさせていただきます。

本日の資料の確認をさせていただきます。「本日の次第」、「令和2年度の事業報告」、「令和3年度の事業計画」、「参加委員名簿」をお手元にご用意いただきまして、開会までしばらくお待ちください。

定刻となりましたので、ただいまから令和3年度第1回北区飛鳥山博物館運営協議会を開催させていただきます。

昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、運営協議会は第1回、第2回ともに書面開催とさせていただきました、任期2年目ですが、委員の皆様方一堂にお顔を拝見するのは今回が初めてということになります。簡単で結構ですので自己紹介をお願いいたします。

【議長】2年間、皆さんとお会いする機会がコロナのためにありませんで、今日、実は本当に楽しみにしていたのです。こういうようにお顔を拝見して、ぜひまた元気なお顔を見せていただければというふうに思います。

それで、今日の進行を務めさせていただきます。よろしくどうぞお願いします。

【委員A】副会長を務めさせていただいております、東京学芸大学の君塚と申します。飛鳥山博物館さんのほうには今年度、このコロナ禍の状況の中で、本学の授業、博物館実習という授業で多大なご協力をいただきまして大変ありがたいと思っております。それが今日、資料の中に出ておりますので、また後で申し述べたいと思います。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

【委員B】もう何年になったかはちょっと忘れちゃったけれども、委員になりまして、市川の学芸員のときには議長の部下で仕事をしておりまして、それで、また北区のほうにも議長にちょっとお声がけさせていただいて、それで勉強させていただいております。よろしく願いいたします。

【委員C】久しぶりにお顔を拝見できて大変うれしく思います。

私は、今年度4月からは非常勤も全て辞めてしまったので、今、無所属ですがけれども、在職中はいろいろと博物館関係のことで諸先生方に教えていただいて、この北区飛鳥山博

物館も一つの私の憧れの博物館活動をされておられるところなので、委員という偉そうな立場をいただけてしまっていますが、私自身が勉強させていただきたいということで参加させていただいています。どうぞよろしくお願いいたします。

【委員D】どうぞよろしくお願いいたします。なかなかこの運営委員会、出席できる機会はないのですが、その他のことでいろいろこの飛鳥山博物館の先生方にはご協力いただき、小学校では副読本「わたしたちの北区」、それから渋沢栄一の副読本の協力もいただきました。様々このコロナ禍でもご協力いただいております。ありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

【委員E】

私、以前に一度、運営協議会委員をやらせていただいたことがあるのですが、飛鳥山博物館さんとはいろいろな企画で大変お世話になっております。それで、また今回、こういう機会を得ましたので、もう一度応募して委員になりました。

興味があるのは令和3年度の計画の中で幾つかのものについて、私も是非いろんなことを提案してみたいなというふうに思いがあったものですから、今日ここに参加させていただきました。どうもありがとうございます。

【委員F】どうぞよろしくお願いいたします。いつも会社ではMicrosoft Teamsのビデオ会議をやっていたもので、今回ご提供いただいたこのシステムでは初めての参加となります。今も操作が不慣れになってしまったのですが、この会議に参加するのを楽しみにしていましたので、どうぞよろしくお願いいたします。

【委員J】

飛鳥山博物館様には社会科の副読本「ふるさと北区」をはじめ、渋沢栄一の副読本につきましても大変ご尽力いただきましていつも感謝しております。また、学校単位では生徒が、北区にも大変ご指導いただきまして本当に感謝をいつもしております。今日はよろしくお願いいたします。

【事務局】どうもありがとうございました。

続きまして、北区教育委員会を代表いたしまして、教育振興部長よりご挨拶を申し上げます。

【教育振興部長】皆様、改めましてこんにちは。

ただいま司会からもご案内がありましたとおり、本日の会議は緊急事態宣言発令期間中ということもございまして、オンラインによるリモート参加の方もおります。私も自席か

らの参加とさせていただいております。どうぞよろしくお願ひいたします。

この協議会の開会に当たりまして一言ご挨拶をさせていただきたいと思ひます。

皆様におかれましては、ご多忙の中、飛鳥山博物館運営協議会にご参加いただきまして誠にありがとうございます。また、委員の皆様方には日頃から飛鳥山博物館の運営にご理解、ご協力をいただきまして、この場をおかりして厚く御礼申し上げます。

さて、博物館でございますが、昨年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴います臨時休館などもございまして、昨年度の入館者数は一昨年度に比べて約3万人の減という状況でございまして、予定しておりました講座、講演会、全て中止となっております。

一方で、本年2月からは、今年度のNHK大河ドラマ「青天を衝け」の大河ドラマ館を2階フロアに開設しておりまして、大河ドラマ館の入館者には1階の常設展示室にもご入館いただき、ふだん北区に足を運ぶ機会のない方にも北区飛鳥山博物館の魅力を体験していただきまして大変ご好評をいただいているところでございます。

また、今年の新成人に対して、1月の北とぴあでの成人式の式典、会場での開催ができなかったことから、当日の式典の入場券を大河ドラマ館の入場券として活用できるという取組をさせていただきました。これまで数十人程度ではございますが、飛鳥山博物館にも足を運んでいただきまして、若い世代への博物館のアピールにもつながったのではないかとこのように考えてございます。

つづきまして新型コロナウイルスでございますが、昨日は都内の一日の感染者数が、初めて5,000人を超えるという状況でございまして、依然として全く収束の兆しも見えてございません。博物館の事業やイベントもどこまで予定どおり進められるか分からないところでございますが、緊急事態宣言、また、まん延防止等重点措置の期間が過ぎましたら、感染予防対策を徹底した上で、できる限り多くの講座を開催できればと考えてございます。

本日、この後、昨年度の事業報告、また、本年度の事業計画の改訂版をご説明させていただきまして、いつものように皆様方からそれぞれのお立場でのご意見、ご提言を頂戴いたしまして、今後の運営に生かしていきたいと考えてございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

最後になります。皆様におかれましては、新型コロナウイルスの感染、そして熱中症には十分お気をつけいただきまして、この暑い夏、乗り切っていただければと思っております。

簡単でございますが、私のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

【事務局】 ありがとうございました。

本日は、委員10名のうち5名の方に会場にてご参加いただいております。また、3名の方がオンラインによるリモート参加をされております。

東京都北区飛鳥山博物館条例施行規則第12条第2項に定められた開催要件であります半数以上の出席を満たしておりますので、本協議会は有効に成立していることをご報告いたします。

本日の議題でございますが、「令和2年度事業報告について」、「令和3年度事業計画について」でございます。

今後の協議会の進行につきましては、議長をお願いしたいと存じます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

【議長】 それでは、令和3年度第1回の北区飛鳥山博物館運営協議会を始めたいと思います。

本日の協議会の議事は、令和2年度事業報告と、令和3年度の事業計画についてであります。

まず、令和2年度事業報告について、事務局よりご説明をお願いいたします。よろしくお願ひします。

【事務局】

まずは、令和2年度事業報告をさせていただきたいと思います。お手元の資料をおめくりください。まず1ページ目、館の利用状況でございます。開館日数及び入館者数でございますが、開催日数は250日、そして入館者数は8万1,317人となっております。こちらのほうは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月6日から5月31日まで臨時休館をしたために、昨年度より減になっております。

常設展示につきましては、観覧者数は1万8,333名となっております。

飛鳥山アートギャラリーにつきましては、第1室、第2室とも観覧者数はお手元の資料にあるとおりでございますが、アートギャラリー第1室に関しましては、11月25日より学校対応展示などの展示スペースとして利用しております。

続きまして2ページ目でございます。

特別展示室・アートギャラリー第1室を会場として行った展示が、企画展、特別展覧会、スポット展示、合計3回、132日、110営業日、1万9,502名を数えております。

その他では、ミニ展示、それから常展活用展示をそれぞれ1回、2回となっております。

企画展でございますが、企画展「飛鳥山三百年展 楽しい！だから続く、吉宗がつくった江戸のワンダーランド」を開催いたしました。こちらのほうは、会期が6月2日から8月30日ということになっておりますが、本来は令和元年度春期企画展として3月18日から5月6日に開催する予定でございました。それが新型コロナウイルスの関係がございまして6月2日から8月30日の開催というふうに変更になりました。

続きまして、特別展覧会でございます。「第19回人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家展」を9月12日から10月11日の期間で開催いたしました。

4ページ目をおめぐりください。スポット展示でございます。「ASUKAYAMAセレクション5★2021★」と題しまして、展示を行いました。飛鳥山アートギャラリー第1室を会場といたしております。こちらの展示に関しましても、本来、秋に行われる予定でございましたが、それがコロナの関係で延期になりまして、この期間に展示を行いました。

続きまして5ページ目でございます。ミニ展示「渋沢栄一と北区」を常設展示室の一部を利用しましてパネル展示を行っております。大河ドラマ館の開設に当たりまして、それに合わせた形で常設展示室の中に開設したものでございます。

イベントにつきましては、「夏休みわくわくミュージアム」を1回開催いたしました。

この「夏休みわくわくミュージアム」でございますが、本来は展示、そしてホワイエを使った塗り絵コーナー、調べもの学習に関連したコーナー、そして体験講座を行う予定でございましたが、コロナにより講座は全て中止といたしました。常設展示室では、クイズラリー「博物館deたからさがし」を行っております。また、講座の代わりに「おうちdeつくろう！」として工作キットなどをミュージアムショップで販売し、各家庭で体験してもらうことを行いました。一部、作り方の動画を製作し、ホームページで公開しております。なお、「おうちdeつくろう！」は、北海道博物館の「おうちミュージアム」に賛同して企画したものでございます。

続きまして7ページ目、講座・講演会でございますが、こちらも全て中止となっております。また、出張事業でございますが、こちらも実施しておりません。

団体見学でございますが、こちらのほうは、22団体、1,070名の参加がございま

したが、コロナ感染拡大防止等鑑みまして、学芸員による解説は基本的には中止としております。

続きまして9ページ目、小・中学校の見学でございますが、合計10校、639名のご参加がございました。例年と比べますと半分の学校となっておりますが、やはりコロナによる見学の控えが影響していると感じております。

高等学校、専門学校、大学、大学院の見学はございませんでした。

続きまして10ページ目、「来て、見て、しって！昔の暮らし」を開催しております。本来ですと、「来て、見て、さわって！昔の道具」という学校対応事業ですが、コロナの関係もございまして、資料に触るということを控えるということになりまして、「来て、見て、さわって」ではなくて、「来て、見て、しって」というものに置き換えて行っております。また、通常実施している、昔の道具を体験する洗濯体験、かまど体験、風呂敷体験等は、実施しておりません。当初の事業予定より、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、11校がキャンセルとなりました。

続きまして、小・中学校支援事業でございます。出張事業が1校ございました。

続きまして11ページ目、職場体験でございます。これも例年ですと五、六校の職場体験のお申込みがありますが、昨年度は合計1校、2名の参加でございました。

また、教員支援事業でございますが、教員研修を8月に行っております。

学芸員実習でございます。受入人数4名で、例年どおり7月末から8月の初旬にかけて行っております。

例年ですと見学実習も受け入れておりますが、昨年度は東京学芸大学と明治大学からお申し出がございましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止といたしました。ただ、東京学芸大学様におきましては、見学実習の代替として12月15日にWebによる遠隔授業を行いまして、これに当館の工藤学芸員が参加して当館の紹介を行っております。

続きまして13ページ目、資料の貸し出しでございます。資料の貸し出しは、貸し出し件数3件、貸し出し点数36点でございます。

資料の利用に関しましては、利用申請件数が74件、利用件数が235点となっております。この利用申請に関しましては、ほとんどが出版社の関係でございまして、画像データを提供しているということになります。

続きまして24ページ資料の収集でございます。

まず、寄贈でございますが、寄贈の受け入れ件数は4件、資料件数15点がございました。また、購入でございますが、購入の実施件数が14件、資料点数も14点、購入しております。最後に、資料の保全でございます。例年どおり、環境調査を9月24日から10月19日の期間で行っております。燻蒸のほうも7月4日から7月13日までの間に燻蒸を行っております。

雑駁でございますが、以上でございます。

【議長】ありがとうございました。

ただいまの事務局のご説明の中で、ご質問、あるいは、何かご意見がございましたらお受けしたいと思えます。

【委員B】来館団体の中にコンビニのローソンって入っていたので、これはいつも来るのですか。コンビニが来るというのが目につきまして、デイサービスコモンズ、これは要するに回想法かということだと思えますが、ローソンの方々25名ですけど、来られたとき、どんな反応を示されているのですかね。

【事務局】具体的にこれは学芸員が対応しておりませんので、日誌等でこのような団体が来て、特別展を観覧していったということでございます。

【委員B】もう一つは、来館校ですが、大田区立田園調布中学校が来ていますけど、これはどういうリアクションというか、どういう反応を示されましたでしょうか。

【事務局】中学校が当館を利用する場合はすけれども、団体でというよりは、グループ行動で来るような形を取っているところが多くありまして、この大田区立の田園調布中学校さんも五、六名のグループで、それで交通機関を使って各グループが来て、展示室を見学するというような形でございます。

【委員B】見学の態度はいいですか。

【事務局】受付や、展示担当職員からは、特にそういったような話は聞いておりません。

【委員B】どうも失礼しました。ありがとうございました。

【議長】よろしいでございますか。

そのほかにどなたかございませんか。

【委員C】質問とかというわけではないのですけれども、コロナの関係で講座・講演会、あるいは出張事業とかいろいろ中止せざるを得ないということで、館の方々としては本当にじくじたる思いになられたと思うのですけれども、来館者の方、あるいは、来館されなくても見る側の区民の方のほうから、こういう講座・講演会がなくなったとか、出張事業

がなくなったということに関しての何かご意見というか、そういうものなんかは少し聞かせてきたりするところはありませんでしょうか。

【事務局】直接そういった方とお会いすることもあまりなかったので、おはがきを頂戴するとかというのもそれほどなかったのですけれども、お一方、常連の方がお見えになり、講座・講演会というものがなくなり、自分たちの行き場がない、というお話を伺ったことがございます。

【委員C】そうですね。やっぱり数でこういう風に書かれて、こういう風でしたというだけでない内容がいろいろ含まれていると思うので、その辺を今後のためにどういうふうに生かしていくかということで、あちこちの館、博物館だけでなく、いろんなところが活動を休止して、その後どうするかというところで悩んでおられるところだと思うのですけれども、やっぱり来館された方、利用された方がどのような思いでおられるかというのを今後とも少し、ちょっとご意見、感想を伺えるような場面があるといいかなというふうに思いました。

【議長】ありがとうございます。これは本当に大事なことだと思いますので、ひとつ考えていただければと思います。

続きまして、学校関係何かございせんか。

【委員D】はい。一つは、「来て、見て、しって！昔のくらし」というふうに、ちょうど指導要領が切り替わって2年目になります。それで、この社会科の副読本、その指導要領から学習の内容、学習のやり方も少し変わってきた、その過渡期中で、またいつもやっていた「来て、見て、さわって！昔のくらし」から「来て、見て、しって！昔のくらし」に変わってきた。

学習内容としては、こちらのほうが私としては合っているかなと、3年生の地域学習の中で、地域の変化をしっかりと捉えていくということで、これを学習するにはやっぱり、今まで体験から入るといのはすごく大きかったですけれども、それも大切なのですが、実際に北区がどういうふうに変ってきて、その北区に住んでいる人たちの暮らしぶりがどういうふうに変ってきた、北区を紹介しなければならないというところでは、この「来て、見て、しって！昔のくらし」という取組のほうが、これから必要になってくるのではないかなと思っています。

さらに、これを広げてというか、もっと具体的にというか、いろんなところの北区の特色を出した写真資料とか。そして、先ほどお話がありましたけれども、やっぱり博物館で、

これは教員もそうですけれども、子どもたちもただ見て、読むというよりも、やっぱりお話を聞いたほうが頭に入ってくるのかなというふうに思っております。

そんなところで、一昨年度と比べると昨年度、変わってきたけれども、方向としてはいいほうに変わってきたかなと思っています。さらにこれを広げていってもらえれば小学校としてはありがたいなというふうに思っております。

【議長】ありがとうございます。貴重なご意見ですね。これから、博物館が本当に取り組まなきゃいけないことが、かなり強調されているようです。大事なことですから、ぜひこれを頭の隅に入れながら進めていただければというように思います。ありがとうございます。そのほか何かございませんでしょうか。真家先生、どうぞ、すみません。

（機材不調のため電話にて意見を聞く）

【委員C（電話で聞き取り）】おうちdeミュージアムというのは、どのような内容になっていますか。

【事務局】6ページ目の「夏休みわくわくミュージアム☆2020ーおうちde博物館ー」というものがございまして、講座が開けないものですので、各家庭で作れるものを作ってもらったりですとか、そういったような作り方を、手順をアップしたりですとか、そういったようなことがあるのですが、北海道博物館さんが、コロナで博物館に子どもたちも含めて親子で参加することができなくなった代わりに、おうちの中でできることを博物館が提供しましょうということがありまして、それに賛同する博物館が、全国の博物館が、それを賛同したところが、そういうものをホームページ上にアップしまして、それを見て子どもたちが何かをやるということがおうちミュージアムというふうになっています。

北海道博物館さんのほうで決まったロゴですとか、そういったものを作りまして、賛同した博物館はそのロゴと共にそれぞれの博物館でできることをラインアップしていくというようなこととございます。

【議長】いかがですか。聞こえましたですね。

【委員C（電話で聞き取り）】分かりました。

【議長】それでは、何かそのほかございませんか。

なければ次の令和3年度博物館事業計画についてご説明をお願いします。

【事務局】令和3年度北区飛鳥山博物館事業計画についてご説明したいと思います。

こちらの計画は改訂版というふうにございます。実は、昨年度末に事業計画をつくりまして、委員の皆様にはご送付させていただいたところですが、新型コロナウイルスの関係

で講座・講演会、展示も含め計画どおりにはどうも進まなくなっていました。そこで、上半期は全ての講座・講演会が中止になり、改めまして、その中止になった分も含めて下半期を練り直したものがこの改訂版でございます。

1 ページ目をご覧ください。まず、展示事業でございます。大河ドラマ館の開設に伴う展示会場の変更がございます。令和3年2月20日に大河ドラマ館が当館内に開館いたしました。このことにより会期中及び12月26日の会期終了（予定）以後、1月の撤収期間を含めて特別展示室・ホワイエ・講堂の利用が不可能となりました。このため会場を3階アートギャラリー第1室に代えまして、スポット展示、夏休みわくわく展示、特別展覧会、学校対応事業展示を開催いたします。なお、令和3年度春期企画展は通常どおり、特別展示室において開催いたします。

続きまして、講座・講演会事業でございます。新型コロナウイルス拡散防止を講じた安全・安心な講座の工夫でございます。

座学においては会場のキャパシティを考え、応募人数を少なく設定いたします。三密を避けるため野外講座の割合を増やしました。一般講座22講座のうち12講座を予定しております。なお、野外講座においてはワイヤレスガイドシステムを用いて、距離を保ちながら講師の話を聞くことができるように工夫しております。また、一つの試みとしてYouTubeを利用したオンデマンド講座も行う予定でございます。なお、緊急事態宣言並びにまん延防止対策期間中の講座・講演会は中止にするようにいたしております。ということでございますので、いまだに講座・講演会はできていない状況でございます。

予定としましては、展示・イベント・講座・講演会事業数でございますが、展示に関しましては企画展以下、常設展示室活用展示も含めまして8回を予定しております。

また、イベントに関しましては「夏休みわくわくミュージアム」、現在開催中ですが、1回を予定しております。

講座・催し物に関しましては、26講座、30回を予定しております。

それでは2ページ目をおめぐりください。企画展でございますが、春期企画展としまして「だから、そこは人を孤独にしない～名所と風景のジャポニズム展～」を開催する予定でございます。こちらのほうは、大河ドラマ館が終了した後でございますので、特別展示室、ホワイエ、講堂を使いまして展開する予定でございます。

また、特別展覧会「第20回人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家展」を開催いたします。こちらのほうは、例年ですと特別展示室を会場とするのでございますが、大河ドラマ館開

設のためにアートギャラリー第1室、第2室、そして閲覧コーナーを利用しまして開催する予定でございます。

3 ページ目でございます。「夏休みわくわくミュージアム☆2021「ここがすごいぞ！渋沢栄一」」を現在開催中でございます。こちらのほうも3階アートギャラリー第1室を利用しております。

続きまして、学校対応事業展示でございますが、「来て、見て、知って！昔のくらし展」を1月12日から2月27日の開催期間で予定しております。

また、スポット展示でございますが、これは令和2年度のスポット展示「ASUKAYAMAセレクション5★2021★」の継続としまして開催したものでございます。

4 ページ目でございます。「栄一、西ヶ原一里塚に奔走す」を6月1日から開催いたしました。今後の予定としましては、同じくスポット展示、秋に「JOMON土器 VS YAYOI土器」を開催する予定でございます。

続きまして、ミニ展示でございます。令和2年度の事業報告の説明にもございましたが、「渋沢栄一と北区」、こちらのほうを現在開催中でございます。12月26日までの期間になっております。

そして5 ページ目、常展活用展示でございます。令和2年度の常展活用展示〈回想のための〉テーマ展示を行っております。

そして、イベントですが、先ほど展示のところで触れましたが、「夏休みわくわくミュージアム☆2021ーあすかやまde！おうちde！博物館ー」、これを現在開催中でございます。

続きまして、3番、講座・講演会でございますが、当初は前半期も講座を予定していたのですが、それを改めまして下半期に集中して講座を組んでおります。

続きまして、13 ページ目、学校対応・支援事業でございます。先ほど展示のところで触れましたが、「来て、見て、知って！昔の道具」をアートギャラリー第1室・体験学習室・閲覧コーナーを利用しまして開催する予定でございます。

そのほか、体験授業、出張授業、こちらのほうは依頼に応じて実施ということですが、やはり現在、新型コロナウイルスの感染拡大ということもありまして、依頼は今のところはございません。

続きまして14 ページ目5番の学芸員実習でございます。博物館実習、7月27日から8月8日、まさに現在実施中でございます。立正大学、大正大学、学習院大学、御茶ノ水

女子大学から各1名が参加しております。

見学実習に関しましては、今のところご依頼はございません。

続きまして15ページ目、出張事業でございます。回想法プログラム「昔の道具で思い出がたり」、それから一般講義等準備しておりますが、こちらのほうもコロナの関係等ございまして、今のところはご依頼がございません。

7番の団体見学でございますが、こちらのほうも、一般見学のほうはされる方、いらっしやいますけれども、現在は学芸員の解説は中止とさせていただいております。

続きまして16ページ目、8番の資料の貸出・利用でございます。こちらは通年と同じように資料の貸出依頼がございましたら貸出し、そして利用の依頼がございましたら利用の手続をさせていただいております。

9番、資料の収集ですが、これも通年どおり、資料の寄贈、それから購入を予定しております。

10番、資料の保全に関してですが、こちら環境調査のほうを5月、6月の期間に行いまして終了しております。

2番の燻蒸に関してですが、例年ですと6月末から7月初旬にかけて収蔵庫のほう、特別収蔵庫、一般収蔵庫のほうの燻蒸を行うのですが、大河ドラマ館の関係もございまして、今年度は、3月5日から11日を行うことを予定しております。

以上でございます。

【議長】 ありがとうございます。

新型コロナ関連ですね。先がいつ終わるのかというのは全然見えない中での計画というのは非常に難しいだろうと思います。だから、こちらのほうの主体的に考える事業なんかも、あるときは中止しないといけないとか、突然出てくると非常に難しい状況ですけれども、その中でこれだけの事業計画を説明いただきました。何かこれについてのご質問等がありましたらお受けしたいと思います。どなたかおられますか。

【委員E】 たくさん新しい企画があるので興味を持っているものが幾つかあるのですけれども、実際にどこまでできるかということがまず問題なので、どういうふうにお話をしているのかなというのは、ちょっと言いにくいですがけれども、内容について、聞いてよろしいですか。

【議長】 はい、結構です。

【委員E】 そうですか。それじゃあ例えば新しい講座の中で19番の「『将門記』からひも解く武士たち」というやつで、これは新しい講座だと思うのですが、どんなことをやるのかなというのが、北関東の関東武士のことについてどういうことをやるのかなというのをちょっと。

【事務局】 この件に関しては、担当学芸員がおりますので、よろしくお願ひします。

【学芸員】 「『将門記』からひも解く武士たち」を担当します、よろしくお願ひいたします。

今回、この講座に関しましては、古代史の講座の一つの一環とさせていただいております。古代史の講座自体が、この飛鳥山博物館の講座の中では初めての試みとなりますけれども、最初のほうの「文献から知る北区の古代史」から引き続きましての講座と考えており、「『将門記』からひも解く武士たち」という講座に関しましては、古代から中世にかけての先駆けの講座と考えております。北区には中世武士団、豊島氏を率いる中世武士団が非常に有名ではございますが、こちらを一つ知るきっかけというか、前の段階として古代の武士団ということで、そこで考えられますのが『将門記』、一番興味が引きやすい作品として選択させていただき、古代史の講座として取り入れさせていただいた次第です。

【議長】 いかがですか。

【委員E】 分かりました。あとは聞いて楽しみ、できればと思います。

【学芸員】 ありがとうございます。

【委員B】 よろしいですか。

【議長】 はい。よろしくお願ひします。

【委員B】 去年から1年延ばしになってしまいました、学芸員さんの講座に関連してですが、やっぱり『将門記』の面白さって、『将門記』という記録文学ですよ。

だから、『将門記』の面白さというのは文献からひも解くということもあるのですが、『将門記』の記録文学の世界と、現在の地名が比定できるのです。最後に、将門が自死したその場所も分かるわけです。そういう点で文献からひも解くのもいいですが、北区から日帰りで帰れますから、ぜひフィールドワークなんかも、取り入れて欲しい。

コロナ次第ということになりますけれども、ぜひ学芸員さんにはお願ひしたいと思ひます。

それともう一つ、「守貞謾稿」ですが、これはどういうふうにやられるか、また1年ぐらい考えられていて、今中止ですが、生活史ということと、江戸時代の生活

史という、確かにあれもそういうことには有意なものですけれども、1年間引き延ばしになりましたけれども、どういうふうに考えられていますか。楽しみにしているので。

【学芸員】「守貞謾稿」の講座を担当します、よろしくお願いいたします。

去年から「守貞謾稿」を使って講座をやりたいということは申し上げていますが、新型コロナウイルスの関係で中止となっておりまして、今回はしっかりと開催できるようにオンデマンドという形で、実際にその日に講座も実施し、それを録画しておいて、その後、YouTubeで期間限定公開をするという形で講座を運営していこうと考えております。

当館内で行う講座ですので、館内で館蔵資料を使いながら講座をやって、実物資料を使って講座を進行していこうと考えております。

今回は、江戸時代の家の中ということで、基本的には実物資料を使って家財道具を見ていきたいと考えております。以上です。

【委員B】もう一言だけちょっとよろしいですか。

【議長】はい、大丈夫です。

【委員B】今、専門とは何かということが問われている時代ですね。

君は何を専門と言うと近代、君は何を専門と言うと古代と言うけれども、そういうことはあまり気にせずに、もっと広いキャパで、地域学ということで取り組むべきでしょう。

だから、そういう、もう時代別や専門にこだわっているという学問の方法論というのは、もう崩壊しているのですよ、瓦解しているというか。

学芸員というのは日本唯一ですよ。外国ではKeeperとかCuratorとかconservatorとかと言いますが、それとは全然種類が違う日本独自ですね。

やっぱりさっき言ったように、文化人類学でも民俗学でも専門を超えてやっているのが学芸員じゃないかというように、僕は最近つくづく考えていたのですけれども、そういうことをぜひ担当学芸員さんたちには目指してほしいなというふうに期待しております。よろしくお願いいたします。

【議長】ありがとうございました。

何か今度は学芸員の問題まで非常に深い話になってきましたけれども、これまた日を改めて、ぜひそれを話し合えば、より効果的な結果が出るのではないかなというように思いますので、ひとつそれをまた、よくおのおの考えていただきたいと思います。

それでは、今の続きで何かご質問、ご意見とかがありましたら、君塚副会長、何かございませんか。

【委員A】 それでは、私のほうからよろしいでしょうか。

ありがとうございました。このコロナ禍の状況下、全国の博物館が苦しんでいる中で、本当に北区の飛鳥山博物館さん、やるべきことはしっかりやっているというふうに考えています。

その中でもいろんなことをこれから模索されていかなければいけないとは思いますが、アフターコロナという言葉が喧伝されていますけれども、私は多分、ウィズコロナになるのではないかというふうに考えています。ウィズコロナの中での博物館の在り方というのはやっぱり考えていかなきゃいけない段階に来ているような気がするのですね。

その中で、例えば今回も少し試みがあったようで、うちの大学もお世話になりましたけれども、デジタルコンテンツの充実というか、その部分というのが、一つの在り方だろうと。全国の博物館のホームページとか、いろんなものを見てみると、ここまでやってくれるのかというような、かなりクオリティの高いものがたくさん出ています。

例えば今回もオンデマンドの講座、オンラインの講座とか、いろんな形態というのも考えられますけれども、そういうものをやはり備えておくということが今後の計画の中でやっぱり必要になるというふうに考えています。

例えば今回、講座のオンデマンド化というのが先ほどYouTubeに載せると、私も飛鳥山博物館のやつは全部見ておりますけれども、大変、質の高いものが出されています。その延長線上で、例えばスポット展示とか、展示の一部を見せていきつつ、今、学生、若い人たちというのはホームページよりもむしろSNSのほうで情報を摂取したりするというのが、以前のこの運営協議会の中での議論でもございました。そういう人たちにもアクセスしてもらえそうな、つまり、本館に最終的には来てもらうための入り口のコンテンツとして、そういうもののラインアップ化ということも進めていくということが、多分、今の時間帯にできることなのかなというふうに考えていますが、その点いかがでしょうかということが1点です。

特に今後、学校現場との連携という意味では、電子教科書の問題ですね。それから、あと、電子副教材、副教材のどこまで電子化されるかということもありますけれども、そういうものへのアクセスだとか、あるいはコンテンツ提供だとかということで、そのこともやっぱり念頭に置きながら、最終的には、これはいいか悪いかは別にしても、文部科学省が言っているSociety 5.0の社会だとか教育の在り方の中での北区の飛鳥山博物館の経営、運営での在り方と、その具体というのを今考えていく、そういう時間帯なのか

なというふうに考えておりますが、その点については、見通し等々も含めて、今は本当によくやられていると思います。大変面白く見ておりますし、この前の見学も学芸員さんだけではなくて、事業係長さんにも出ていただきまして、非常に学生に好評でして、ぜひ行ってみたいというようなところにやっぱりつながっていきますね。ですから、その見通しについてどういうことを計画されようとしているのか、あるいは、可能な範囲で結構ですので、もしお話しいただければというふうに思います。議長、以上です。

【議長】事務局お願いいたします。

【事務局】ただいまのご質問についてお答えしたいと思います。

我々もなかなか講座、それから展示も思ったようにできない状況で、歯がゆい状況が続いておりますが、そういった中で、やはり動画を作成しまして、それを有効活用しようというようなことは学芸員の中からも出てきまして、館全体の中でそういう方向に今やっていきたいというふうに思っております。

特に、確かにSNSを利用する、活用するというのは、非常に有効であるということも去年からSNSを始めていますので、そういったことも我々も感じているところですので、これをうまく利用していきたいなというふうに思っています。

今、委員Aからお話いただきました電子教科書、副教材、ここまではまだ念頭にも全くなかったですけれども、やはり学校の先生方も当館を別の形で利用していただけるということもあるのであれば、教材の素材になるものですか、そういったものをうまくご提供できるようなことも考えていかなければいけないのかなというふうに、今、先生からのお話で感じたところがございます。以上でございます。

【委員A】よろしいでしょうか、追加で。議長、よろしいですか。

【議長】はい、どうぞ。

【委員A】ありがとうございます。それと同時に、今、一人一台タブレット端末が配られていて、GIGAスクール構想というのが進んでおりますが、うちにも中学生の子どもがおり、1台持ってきたのですけれども、学校側からの具体的な指示がないのですね。どういうふうに使っていいかわからないというのが、恐らく学校の先生方も、それから子どもたちもまだまだこれからだろうというふうに思うのですけれども、例えばせっかく端末が配られていますので、例えば中学生だとかというのは博物館との距離がやっぱりありますから、そこにコンテンツを、教育委員会を通して普及していくというやり方で、より中学生の皆さんに身近に感じていただくとか、あるいは、そこで夏休みの課題として学

校と連携しながら飛鳥山博物館の例えば縄文土器を使って調べ学習を進めていくとか、レポートを作成させるとか、そういうことというのはやっぱり可能なのではないかなというように思うので、少しターゲットを定めたデジタルコンテンツの製作と、それから戦略的展開というものを考えていただければなというふうに思っています。以上です。

【議長】じゃあ合わせて、お願いいたします。

【委員J】

中学校でも、今、授業がやっぱりハイブリッド型というふうなことで一斉授業と、またオンラインによる授業というふうなことで行っているところです。

そういう中で、まず、一斉の授業とかいろんなところでまず飛鳥山博物館の学芸員さん、非常に優秀で、私も教員時代から、石倉先生に重い板碑を持ってきてもらって授業に参加いただき、やってまいりました。

そして、今、北区の社会科のほうで、先生方で副読本等を作成するのですけれども、やっぱり専門性というようなところでは、どうしてもいろいろと調べているところで分からないところは、常に、これは学芸員さんにお聞きしてというようなことでやっています。そういう意味では、我々教員にとっても非常にありがたい学芸員さんの在り方というふうに思っております。

そういう中で、やっぱりデジタルコンテンツとか、また、今、渋沢栄一の副読本の中でも出てきましたけれども、QRコードをそこにつけて、すぐに情報が見られるように、今作っているところがございます。

また、これは本校のことになってしまいますけれども、職場体験が今回できませんでした。コロナの影響で。どうしても私は学芸員さんの仕事、こんな魅力的な仕事があるということ子どもたちに伝えたいと思ひまして、職種四つのうちの一つに学芸員さんを選びまして、それで来ていただきました。そうしますと、やはり先ほどもお話がありましたように、海外、アメリカとかいろんなところの学芸員さんの仕事とまた全然違うと。そういう地域に根差した中でいろんなことをやっていく、それを聞いて、歴史が好きな子が、やっぱり学者になりたいというふうな思いもそうだけれども、ただ、その地域の人に伝えていきたい、そういうお話を受けて、そういう目当てで子どもたちが学芸員さんを身近に感じて、また今、「青天を衝け」に関連して、いろいろと特典を与えていただいている、これは本当にありがたいなと思っておりますので、今後とも一斉の授業、また、オンラインの授業、そういった形で、中学校のほうも活用していきたいと思っております。

ります。以上です。

【議長】 ありがとうございます。非常に素晴らしい今お話を伺いまして、今私も感動を受けています。

本当に博物館というのはいろいろ捉え方があるだろうと思うのですが、今先ほど委員Bも言ったように、日本の学芸員が、どうあるべきかということがいま一つ問われていますから、そういうのを含めながら、また今後、時間があつたら、ぜひ北区からよその一つの見本になるような、そういう形を築いていければなというように思います。

それでは、時間もかなり迫ってまいりましたけれども、一つここで皆さんに令和2年度の報告についての承認を受けておきたいと思いますので、賛成であれば拍手をお願いします。

(拍手)

【議長】 はい。全員の方の承諾を得たというふうに記録していただければというように思います。

【議長】 全体的に何かご意見が、もうございませんか。

【委員F】

いろいろと資料を拝見させていただいて、これだけ素晴らしいコンテンツをやられていることを改めて知りました。

一つ、来館者数、入館者数の皆様のお考えはどうお持ちなのかなというのがちょっと率直な疑問でして、去年、一昨年と数値は見ているのですけれども、北区の人口比率で3人の1人、もしくは4人に1人というのが、個人的な感想としては、これだけのコンテンツに比べるとちょっと少ないのかなというふうに感じています。これは、どちらかというところ皆さんというよりは、北区の広報課のお仕事かと思うのですけれども、例えばトリプルメディアの活用の仕方ってどうされているのかなというふうに思います。

先ほど時代がSNSに移りつつあるというのがあったかと思うのですが、北区の広報課でもトリプルメディアは、オウンドメディア、ペイドメディア、アーンドメディアと三つの種類がありまして、例えばTwitterとかInstagramとかFacebookというのはオウンドメディアという北区自身が発信するもので、これを、これは北区の広報課さんにも直接申し上げたことがあるのですが、これを充実したからといって認知は広がりません。もともと北区に興味のある人しか、そこにはフォローしていないので、こ

れをどう広げていくかというのが、残りの二つの媒体になります。

ペイドメディアというのが、いわゆる例えば京浜東北線に乗っていると、そのトレインチャンネルという、乗っていればモニターで映像が視聴できる、あとは王子駅とか赤羽駅のホームにある広告ポスターとかデジタルサイネージとかというものですけれども、これは正直、お金がかかるものなので、なかなか予算がないと難しいのかな。

最後のアードメディアというのが、これが今、私も民間企業に勤めていて、ここを今一番各企業とも重視しているのですけれども、例えば今年度と言うと、日テレのヒルナンデスさんとかテレ朝のじゅん散歩さんとかテレ東のアド街ック天国とか、あと、東京MXテレビさんとか、北区さんを取り上げていたのを私も見ています。こういったものをやっぱりどんどん生かしていかないと非常にもったいないのかなというふうに思っています。

それと、たしか学校、小学校・中学校の来館履歴とかというのをたしか見たと思いますが、正直、北区、もしくは北区近郊、足立、それから板橋、豊島、それから都圏を超えた川口、この近隣、非常に少ないのかなというふうに思っています。これも教育委員会さんなのか、北区広報課さんなのか分からないのですけれども、もうちょっとここも、ただ待つのではなくて、積極的にPRする、特に今年はNHKの大河ドラマで渋沢栄一さんという強いキラーコンテンツがあるので、ここはもっともっと積極的に攻めてよかったのかなというふうに非常に感じました。

いいコンテンツを幾ら持っていて、来ていただかないとせっかくの宝の持ち腐れになってしまいますし、あとは、この認知をいかに広げていくかというのは非常に重要かと思っています。

とはいえ、学芸関係はなかなか若者には心に響かないだろうというふうに思いがちかと思えますけれども、例えば中央区の銀座に「凶鑑ミュージアム」というのが最近できたのですけれども、これが非常に口コミですごい評価をもらっているのですね。私も保育園に通っている子どもがいるのですけれども、子どもが行きたいというふうな形になっていて、必ずしもそういう学芸関係のコンテンツは若者に響かないというのはないのかなというふうに思っています。

結構、座学系というか、講座系が割かし多めのコンテンツが多いなというふうに見て思ったのですけれども、割と最近は出張型、体験型というのが、かなりこれが結構世間的に評判がよくて、リピート率が非常に高いので、コロナ禍でなかなか難しいとは思いますが、アフターコロナは多分、こういった出張とか体験型というのがかなり生き残

っていくのかなと。

確かにDVD化とか映像化とか座学とかというのは、アフターコロナでも生き残っていただけますけれども、これはライバルが非常に多いです。どちらかというところ、飛鳥山に来なければ体験ができないとか、飛鳥山の方々が出張して得られる学びの場というのをぜひ大切に育ててほしいなというふうに感じています。

私からの要望は、小学校・中学校はもともとやられてはいるのですが、これからはぜひ幼稚園とか保育園とか、低年齢層のターゲットを対象にしたプログラムをぜひ充実していったほうが、割と子どもの頃の体験って結構大人になっても残るので、そこは大切にしていかれたほうがよろしいのかなと思いました。

私からは以上です。ありがとうございました。

【議長】 ありがとうございました。

本当にいいご意見をありがとうございます。今の保育園・幼稚園関係の子どもというの、見落としがちなところがありますけれども、それは本当に非常に大事なことだと思います。小さいときにもそういうことの経験というのは、大人までちゃんと覚えているということ、よくあることですから、非常にありがたいご意見だろうというように私も思います。

【委員D】 すみません、ちょっと短く。

今のお話を聞き、それから、その前のお話を聞きながら思ったのですが、本校も実はここに学校で教員の研修で来たのですが、なかなか先生たちがこの存在を知らないのだなというのを実感しました。北区にもう3年、4年住めておりながら、それでも知らない。つまり、結局、社会科とか専門的なところでしか今は利用されていないような気も少ししました。

やっぱり北区の教員として、こういう立派な博物館があった、来てみて先生たちは、こんなところがあったかという、2年目、3年目ぐらいの教員はみんなそう言っていましたし、少し解説もしていただいたのですが、すごく興味を持ったと。本当はこちら側も既に知っているのだろうと思っている、これは学校の校長、管理職もそう思っているのがいけないのかなと思いました。

せめて今、こういうコロナ禍ですけれども、これが終わった後、長期の期間にできるだけそういう自己研鑽みたいな研修の場としてこういうところを利用できるような制度がで

きるといいなど。そこから発信がだんだんと広がっていくような気もしております。もちろん小学校・中学校だけじゃなくて、その場合には幼稚園とかというようなところも入ってくると、さらに裾野が広がって、それが教員、指導者から子どもたちのほうにというような思いも先日感じました。ちょっと余計になりましたけど、一言付け加えさせていただきます。

【議長】本当に、見落としているようなところ結構ありますね。今、委員Dのご指摘があったように、社会科とか何か専門の先生であれば博物館を知っているけれども、そのほかの先生ではほとんど知らない。だから、これであれば、生涯学習であろうと何であろうと、本当にそういう先生方にも知ってもらえるような方法も今後頭に入れながら、いろんな方法論を考えていく必要があるだろうというように私は思います。ありがとうございました、本当に。そのほか何かございますか。時間が迫ってまいりましたけれども。

【委員A】すみません、よろしいでしょうか。

【議長】はい。

【委員A】すみません、短めに。

先ほど、幼児、それから保育園とか、幼稚園向けのというような、私も本当、大切なことだと思います。

23区特別区の中でたしか北区は母子家庭の割合が比較的高い区だったように思うのですが、すけれども、例えば子ども向け、幼児向けといったときに、子育てというか、ある意味では子育て支援というか、若いお母さんたちで、そういう人たちもやはりターゲットにしていくべきだろうと。そういう人たちをやはり結果的に阻害するような形ではなくて、むしろインクルーシブというか、包摂していくような形でやっていく必要があるのだろうというふうに思います。

実態としては、やはり都内、私が住んでいる多摩地域もそうですが、子ども食堂の数がどんどん増えているということに対して、やはり博物館も何らかのアクセスというか、アプローチをやはりしておく必要がある。子ども食堂に直接ということではなくて、そういう子どもたちとか母子家庭だとか、そういうような人たちに対するアプローチというものもやはり意識に置いていただければなというふうに思っています。よろしくをお願いします。

【議長】本当にありがたいことをみんな頂戴しましたね。

【教育振興部長】委員長、すみません、教育振興部長ですけど、今、発言、よろしいでしょうか。

【議長】 はい、お願いします。

【教育振興部長】 今、私もずっと話を聞かせていただきました。皆様、ありがとうございました。

先ほどの委員AからのGIGAスクール構想のお話、委員Fからの様々なメディア等の活用等の話、それから、委員Dからの教員の研修等の話、いずれも教育委員会が様々な考えなくちゃいけないものばかりだというふうに思っています。

特に最後、委員Aからもお話があった子どもの関係、北区は子ども未来部というところが所管しております、幼稚園・保育園等、対応しております。やはり子どもたち、特に幼児からこういうものを学ぶということを体験したりするというのは、本当に先ほど金澤委員もおっしゃっていましたが、貴重な経験にもなりますし、記憶にも残っていくということで非常に重要なのかなと思っています。

また、幼児をターゲットにするということは、一緒に親御さんもついてくるということでのアピール効果も大きいものだというふうなふうに考えてございますので、そこら辺の仕掛けをどういうようにつくっていくか、これは今後、飛鳥山博物館の中でも学芸員等々としっかり検討していく必要があるかなというふうに思っていますし、また、先ほど金澤委員からお話がありました、いわゆる広報的な部分につきましても、これはシティプロモーション担当というところが、先ほどもお話があったように、様々な番組等にも最近出てございますけど、引き続きこのような取組と博物館等々で連携して、何かできるかについては引き続き検討させていただきたいというふうに考えてございます。いろいろと貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。

私からは以上でございます。

【議長】 ありがとうございました。

何かこれで今、部長さんの考えで大きなまとめができたようでございますけれども、一応、令和2年、それから3年度については、これでよろしいでしょうか、皆さん。

そのほかご意見なければ、これで司会のほうにお返ししたいと思います。よろしくお願ひします。

【事務局】 どうもありがとうございました。

今日、頂戴いたしました貴重なご意見を踏まえて、この令和3年度、様々な運営していきたいと思っております。

それでは、最後になります。館長から閉会の辞を申し上げたいと思います。

【館長】本日は大変お忙しい中、委員の皆様には様々なご意見、ご提言をいただきまして本当にありがとうございます。

時間も押しておりますので一言だけお話をさせていただきますと、先ほど委員の委員Fから、来館者についてのお話がありました。私が館長として言うのもなんですけれども、こういった施設は東京の中でも、23区の特別区の中でも数少ない立派な充実した施設です。そういった中で、なかなかこの施設の認知度がはかばかしくないというのは、我々、博物館職員一同感じておりました。今回、渋沢栄一を軸として、大河ドラマ館も区として呼び込みまして、大河ドラマ館を飛鳥山博物館の中に置くということを、これを千載一遇のチャンスという言い方ではありますけれども、ぜひ北区の飛鳥山博物館も一緒に見ていただくということで、大河ドラマ館に来た方は無料で飛鳥山博物館の常設展も見ていただけるというようにしました。

アンケートを実は取っております。大河ドラマ館もよかったけれども、より飛鳥山博物館の常設展がよかったという来館者の方のアンケートが多数ございました。そういったことも含めまして、今後も飛鳥山博物館の認知度と、先ほどトリプルメディアの話もございましたけれども、これからこういったコロナの時代の中で、やはりデジタルコンテンツを充実させていくことが一つの飛鳥山博物館の今後の事業展開の柱になるというふうに考えております。そういったところを含めて、令和3年度以降、事業の展開を進めてまいりたいと思っております。

本当に今日は様々な意見をいただきまして、そういったものを今後参考にさせていただきながら事業展開を進めていきたいというふうに思います。本当に今日はありがとうございました。

【事務局】ありがとうございました。

この運営協議会は、年度内に2回の開催を予定してございます。本日が第1回目でしたので、第2回目につきましては、年明けまして2月から3月の頃に開催をしたいと思っております。具体的な日程につきましては、正副会長とまたご相談をさせていただいて調整をした上でご連絡をさせていただければと思いますので、よろしくお願いを申し上げます。では、以上をもちまして令和3年度第1回北区飛鳥山博物館運営協議会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

【学芸員】ここで、新しい職員が2名ほどおりますので、ご紹介させていただいてもよろ

しいでしょうか。

【事務局】お顔がはっきり見たいので、できるだけ前のほうに来ていただければ。

【学芸員】昨年度、北区に入りました。ふだん、埋蔵文化財の業務をしています。よろしくお願いたします。

【学芸員】今年度4月にこちらに着任をいたしました。よろしくお願いたします。本日、このような運営協議会のお話を聞き、地域に本当に根差した博物館とご縁があったこと大変うれしく思っております。これから考えるべき課題ですとか、学ぶべきことが多いと思いますので、先生方にはいろいろと教えていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

【学芸員】お時間をいただきましてありがとうございます。

【事務局】ありがとうございました。

それでは、オンラインの先生方、どうぞ閉じるマークでご退出をいただければと思います。本日はありがとうございました。